

函館市観光基本計画（施策および具体的取り組み）の実績および進捗状況に係る委員評価結果

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○街並み・歴史的建造物の保全・活用の推進

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価（案）	委員評価（人）					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
1-1	伝統的建造物の保存・活用	歴史的に価値のある伝統的建造物等の保存および活用	通期	実施段階	・終期が定まっていないため、今後も引き続き継続していく。	①積極推進	8	2	0	1	0	<p>(1) 今年は日下部邸が取り壊されるなど、伝建の維持・保存が問われています。今後も積極的な取り組みが必要と思います。</p> <p>(2) 保存に関しては、地域社会側の仕組みが脆弱である。また景観形成地域が狭く、市内に広がるせっかくの貴重な資源が顕在化していない。さらに景観形成地域内でも建造物に偏重しがちで石垣や植栽等の工作物や環境物件、またそれらの構成原理を大切にしたい取り組みが重要。活用については、店舗や宿泊施設だけでなく、住宅としての活用を視野に入れた二地域居住やコレクティブハウス、クリエイティブクラス向け、学生や単身者向け等の新たな住まい方を検討することが大切。また、JCによるウォータースライダーのように、道路や公園などの多目的活用による賑わい創出や住宅環境としての質の向上が重要。そのためには公民連携型で進めることが求められ、とくに観光・経済政策との連動が不可欠となる。</p> <p>(3) 色々な事情があるかとは思いますが、北方歴史資料館が閉館したり旧小林写真館の写真館としての営業が終わってしまうことに心を痛めています。こういう既にある「深い」コンテンツを大切にできたらと思います。</p> <p>(4) 回遊を促す「連続性」を念頭に置いた補助対象の選定が必須と思われる。</p> <p>(5) 伝統的建築物の適正な維持管理は函館観光における魅力の確保に直結すると考えられるので積極推進が望ましいと思います。</p> <p>(6) 西部地区やベイエリアにある伝統的建造物は函館の宝である。</p> <p>(7) 中華会館について：現在閉館中であるが所有者と協議して一般公開（入館料設定）に向けた支援が求められる。</p>
1-2	都市景観の形成に関する各種助成制度の利用促進	景観形成指定建築物等の保全や都市景観の形成に関する各種助成制度の利用促進	通期	実施段階	・終期が定まっていないため、今後も引き続き継続していく。	①積極推進	7	4	0	0	0	<p>(1) 今年は日下部邸が取り壊されるなど、伝建の維持・保存が問われています。今後も積極的な取り組みが必要と思います。</p> <p>(2) 上記に記載したとおり、対象地域や対象物件等を広げる必要がある。また、住居・観光・経済政策と連動した十分な補助金、あるいはマッチングや地域へコミュニティへの受け込み支援など活用を強力に支援する方策を施すことが大切。</p> <p>(3) 回遊を促す「連続性」を念頭に置いた補助対象の選定が必須と思われる。</p> <p>(4) 都市景観は観光において重要な項目だと考えます。よって積極推進が望ましいと思います。</p>

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○新たな観光資源の創出

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
2-1	さらなる観光資源の創出と活用	歴史、文化、自然など、埋没している観光資源の掘り起しと活用	通期	実施段階	・終期末定。当面の間は継続	①積極推進	6	3	1	1	0	(1) イベント開催について、市民向けの広報が不足していたように感じられます。より積極的な広報を通じて、市民を巻き込んだイベントにしていくのではないのでしょうか。 (2) これまでは既存の顕在化した観光資源の再評価、関係者間の関係調整による体制構築といった取り組みであると捉えており、一定の評価をすることが出来る。今後は、新たな観光動態(FIT化、滞在・体験型化)に対応した地域資源のつなぎ直し(ストーリーづくり)に加え、潜在化するが有望な地域資源の観光への活用に関する取り組みの支援を行うことが望ましい。その前提として、民間主導、あるいは官民連携で取り組むことが望ましいと考える。 (3) 「恋人」というテーマに関しては、若者を中心に「なぜ?」とか、「唐突すぎる」、「無理がある」などの意見が多々みられる。 (4) 従来との重複が多い。 (5) 函館の観光誘致の攻めの施策として受け入れ側の立場から更なる推進の期待。 (6) 現状推進と変更の間程度と判断いたしました。「はじまる、恋。函館」についてはイメージ先行となっており、具体的な訴求すべき客層のマーケティングを行った上で推進すべきだと思います。また、フェスティバルタウン構想は目指すところと具体的な施策を明確にしつつ推進することが望ましいと考えます。
2-2	既存観光資源等の再整備の推進	既存の観光資源やその周辺など、雰囲気、景観、歴史などを生かし、さらなる魅力向上を図るための再整備の推進	通期	検討段階	・平成31年度に盤面の貼り替えに合わせ、QRコードを活用した多言語化整備を行う。	②現状推進	5	6	0	0	0	(1) 上記したとおり、新たな観光動態(FIT化、滞在・体験型化)に対応した地域資源のつなぎ直し(ストーリーづくり)が重要であると考えます。 (2) 無理に多言語化に拘る必要性を感じていない。最低限英語表記は必要だとは考えるが。 (3) 函館への観光目的でのFITの増員拡大を期待します。 (4) 多言語化対応も必要ですが、QRコードを利用することで説明内容の充実、写真アプリなどの活用で1ビジュアル面にも訴える仕掛けなども視野に入れると良いと思います。(一例として上野国立博物館)
2-3	グリーンプラザや市道広小路の整備	駅前通との連続性を考慮しつつ、観光名所・イベント機能も兼ね備えたにぎわい交流空間としての整備	前期	実施段階	・継続	①積極推進	6	5	0	0	0	(1) イベント開催について、市民向けの広報が不足していたように感じられます。 (2) エリアマネジメントの考え方を前提とした新たな公民連携の取り組みと連動すべき。 (3) グリーンプラザにて、オリンピック種目にもなっている3×3のバスケの大会を開催したい。 (4) 夜に観光客が楽しめる場所作りに貢献。 (5) 夜間観光への取り組みは急務であり食の魅力だけに頼るのではなく、エンターテインメント、夜市、フェスティバルなどの開催可否についても引き続き検討し推進していく方が良いと考えます。 (6) 通年で利活用法(賑わい)を見出す必要がある。 ※札幌大通公園、旭川買い物公園の小規模版のようなイメージ
2-4	はこだておもしろ館の整備	函館駅前若松地区第一種市街地再開発ビル内に、広く市民や観光客が様々な分野の情報等をバーチャル体験し、交流できる施設を整備	前期	事業完了	・平成28年度	②現状推進	0	4	1	3	3	(1) 駅前・大門地区の再生において、どのような役割を担うかについて、実質的な議論の場の設定や具体的な展開を検討すべき。 (2) 保留が適切であるかわかりませんが、入館料を半額にし入場者数は増加したものの、単価の引き下げをカバーするに至っていないと聞きました。担当されている方のご尽力を拝察いたします。ただ、施設オープンにはゴールではないので、今後、みらい館をどのような位置づけとし、入場者数を増やすのか、ターゲットに対して価値を提供できているのか、など議論する必要を感じます。
2-5	函館駅に隣接した新たな観光施設の整備	函館駅におけるにぎわい創出のため、菓子の製造過程が見学できる工場や飲食・物販スペース、さらには市民や観光客が自由に集える公園を整備	前期	実施段階	・令和元年(2019年)12月にホテルと店舗からなる複合商業施設オープン予定	①積極推進	4	2	1	3	1	(1) どのような複合商業施設になるのか、今から期待されます。 (2) 駅前・大門地区の再生において、どのような役割を担うかについて、実質的な議論の場の設定や具体的な展開を検討すべき。 (3) 函館市特に駅前地区のホテル乱立は異常とも思える。商業施設は歓迎する。 (4) 現実問題として廃止も変更もできないことは承知しておりますが、それでもこれ以上ホテルが増えること、複合商業施設が成り立つのか、など不安を感じます。 (5) 近年、函館駅エリア～ベイエリアにかけて新規ホテルが乱立する傾向であるが、人材確保・サービスの質の面での不安はないか。 (6) 商業施設も持続可能な魅力あるサービスの提供が求められる。(新函館北斗駅隣接の商業施設は考えさせられる問題提起をしている。)

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○アートディレクション機能の充実

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
3-1	函館ロゴマークの活用	ポスター、パンフレット、グッズ、ホームページ、各種事業など、多方面にわたる函館ロゴマークの活用推進	通期	実施段階	・本計画終了時まで引き続き活用促進に努める。	②現状推進	1	9	0	1	0	(1) ゴミ袋のイメージになっている。 (2) 定着認知されているのであれば。 (3) ロゴマークは長期間運用することで認知されるため、積極推進が望ましいと考えます。 (4) 函館ロゴマークの入った缶バッジについて：市職員や観光関係者がつけているが市役所や各支所でも販売することで地元民への歓迎意識の向上の一助にしてはどうか。
3-2	視覚的にわかりやすい案内板・標識の整備	ピクトグラムなど、ユニバーサルデザインに基づいた観光案内板および観光標識の整備	後期	実施段階	・今後も継続的に実施予定。 ・整備については完了しているが、案内板等の標示に変更があるため、次年度以降に修繕予定。	②現状推進	5	6	0	0	0	(1) 観光客に分りやすい案内が可能になれば歓迎。 (2) 視覚的にわかりやすい案内板は街歩きに欠かせない魅力のひとつとなり得るので積極推進が望ましいと考えます。 (3) 函館駅前の点字ブロックが一部剥がれている部分が見受けられる。 (4) 案内板や標識は見やすく・適切な場所に設置することが重要。古いもので見にくいものは早急に取り換えることが求められる。
3-3	観光情報の総合的な調整	プロモーションに用いる各種宣材のビジュアルイメージを総合的に調整する機能の検討	通期	実施段階	・「冬に恋。函館」：当初は令和元年度(2019年度)までの実施を想定しているが、当該年度の実施状況等を勘案し継続するかを検討したい。 ・その他：終期未定。当面の間は継続	①積極推進	5	3	1	2	0	(1) イベント開催について、市民向けの広報が不足していたように感じられます。より積極的な広報を通じて、市民を巻き込んだイベントにしていくのではないのでしょうか。 (2) コペンハーゲンの観光終焉宣言にあるように、「The 観光客」がどれくらい函館にいるのかを想定すると、その答えはFITの増加が示す。そのため「はこぶら」を情報の受発信装置(SNS等の情報の多方向からのシェアを前提とする)として、さらに発展させることが望ましい。また同時にDM機能にとって重要なビッグデータ等の情報の収集・分析装置としての機能を付与することが重要である。 (3) 「恋人」というテーマに関しては、若者を中心に「なぜ?」とか、「唐突すぎる」、「無理がある」などの意見が多々みられる。 (4) 従来との重複が多い。 (5) 上述しましたが、ブランドとは何か、何の情報を誰に向けて発信するのか今一度議論しても良いのかと思います。 (6) 言葉が平凡すぎてインパクトがない。 (7) プロモーション時の素材として必要。 (8) 冬期の函館観光の起爆剤になれば最高である、継続することで浸透していくものであるため継続が必要と考えます。
3-4	美しいまちづくりの推進	都市空間の形成に関連する施策を実施する際に、美しいまちづくり検討会委員から意見を聴取し、美しいまちづくりを推進	通期	廃止・変更	・美しいまちづくりを推進していくための景観誘導については、現行の景観アドバイス制度、都市景観審議会などを活用することによって、実効性が確保できるため	③廃止・変更	1	1	6	1	2	(1) 発展的解消ができていのであれば、他の委員会、審議会に委ねて良いと思います。
3-5	景観アドバイザーによる景観誘導のための技術的支援	建築物等の新築や屋外広告物の表示の際に助言を行うなど、良好な都市景観の形成を図るための景観アドバイザーによる技術的支援	通期	実施段階	・終期が定まっていないため、今後も引き続き継続していく。	②現状推進	2	7	0	1	1	(1) 地域社会として共通の価値観を明確に持つことが難しく、多様化が進む中で、ある程度の規範的で構造的、共創的なアドバイス、あるいはデザインの仕組みを構築することが課題である。(例えば、UDCのような) また公開性を高めることで、社会的な規範力に取り組むことにも期待したい。 (2) 景観を整えることは街のブランドイメージ促進に貢献すると思われるので継続が望ましいと考えます。

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○観光メニューの充実

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
4-1	ニューツーリズムの推進	本市ならではの体験型観光、産業観光、食、学び、癒し、医療、遊び、景観などを生かした、市民も観光客も共に楽しめるニューツーリズムの推進	通期	実施段階	・「Goo-Route Hakodate」、サイクルツーリズム：終期末定。当面の間は継続 ・各国の旅行会社・メディア招請：今後も継続		5	5	0	1	0	(1) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 (2) 体力や時間に応じたサイクリングコースの多様化、例えば片道コース(自転車は乗り捨て)の設定など、が望まれる。同コースをどさんこ(和種馬)との共用にすることで、自然の中で北海道開拓の歴史を体験でき、北海道に不足している新たな文化遺産の造成及び同保存に資する。とりわけ、欧米の観光客の誘致が見込める。(収穫量が減少している)イカの街から、馬の街へのコンセプトチェンジが可能である。 (3) 更なるメニュー構築が必要である。函館ならではのものを開発していく。 (4) ニューツーリズムは定着にある程度時間が掛かると考えられるため、新ルートの開拓等工夫をしながら積極推進をしていくことが望ましいと考えます。 (5) サイクルツーリズムの件は、サイクリングのサイクリング競技者の増加に伴い、南北海道サイクルツーリズム推進協議会が立ち上がるも、補助の不採択等により行先が見えていない部分がある為、改めて内容を協議していく必要がある。 (6) 単なるスポット・グルメ観光には限界があるように思われる。体験型・サイクルツーリズムが入ることによりリピーターの呼び込みが可能になる。近隣市町村との連携も必要。
4-2	外国人観光客向けの観光メニューの作成	縄文文化交流センター、アイヌ文化、道の駅、漁村集落、恵山、温泉などの多様な観光資源を活用した、外国人観光客の誘致を目的とした観光メニューの作成	前期	実施段階	・今後も継続	②現状推進	4	5	0	2	0	(1) 北の縄文は次の世界文化遺産候補ともいわれていますので、もっと多くの外国人に触れてもらいたいと思います。 (2) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 (3) ニーズに合っているのであれば良いが、興味がないところに無理押ししても効果がないのでは。 (4) 外国人観光客はこれからも大きな存在で期待有。 (5) 最終的には外国人向け、日本人向けではなくターゲットと見込まれる日本人、外国人双方に喜ばれる観光メニューの作成が必要になると思うので、推進しつつも双方に訴求する内容の検討が望まれると思います。 (6) 縄文文化への関心が近年高まってきている。大船遺跡・垣ノ島遺跡等積極的にアピールされたい。課題は交通アクセス。中型のマイクロバス等運行の可能性はどうか。来年(2020年4月)民族共生象徴空間ーウポポイがオープンするに伴いアイヌ文化への関心も高まってきている。北方民族資料館の活用した新しい観光メニューが求められる。
4-3	まちあるき観光の充実	既存のまちあるきイベント「てくてくはこだて」を基本とした、まちあるき観光メニューの充実	前期	実施段階	・終期末定。当面の間は継続	②現状推進	4	6	1	0	0	(1) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 (2) 電子化を進めると良いと思います。 (3) 必要と思慮いたします。 (4) リピーターにも喜ばれるマップなので継続することが望ましいと思います。 (5) MICE誘致の経済効果は大きいものがある。積極的に推進すべきと考える。まちあるき26コースはそれぞれテーマが設定されており詳しい情報記載があるが、観光客からは種類が多すぎてどれを見たいのか迷うという指摘も多い。もう少し簡略化してもよいのでは。(廃止ではなく改定変更)

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
4-4	修学旅行向け体験メニューの充実	体験メニューの提供施設などと連携した、修学旅行向け体験メニューの充実	前期	実施段階	・当面継続	②現状推進	4	6	0	1	0	<p>(1) 北東北からも多くの修学旅行生が訪れていますので、エリアの拡大が必要かもしれません。</p> <p>(2) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。</p> <p>(3) 道南への修学旅行誘致は大きな問題点であり推進していく必要あり。</p> <p>(4) 修学旅行は大切なマーケットではありますが、少子化の影響等で今後発展が期待できるマーケットではないため、現状推進が好ましいと考えます。</p>
4-5	夜の観光メニューづくり	気軽に飲み歩きができるなど、市民と観光客のふれあいが生まれる観光メニューづくり	通期	未着手	・未定。当面の間は継続	②現状推進	5	6	0	0	0	<p>(1) 青森・弘前・八戸のバルと協調したイベント開催について検討してもよいと思います。</p> <p>(2) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。</p> <p>(3) 民間主体なのがよいと思います。</p> <p>(4) 町を活性化し楽しみのある函館の夜を演出する。</p> <p>(5) 上述のとおり夜間観光の必要性は高く、食だけでなくエンターテインメント性のあるコンテンツの充実も検討できるとなおよいと思います。</p> <p>(6) 湯の川バルの実施はどうか。</p> <p>(7) バルは地元民のみならず観光客にも積極的に広報するべきと考える。曜日の検討も必要か。</p>

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○広域連携の推進

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
5-1	広域観光コンテンツの磨き上げ	道南や東北など近隣地域と連携した広域的視点による周遊型観光コンテンツの磨き上げ	前期	実施段階	・(協議会の解散時期などは)終期末定。当面継続。(平成30年度版の印刷物は発行済)	②現状推進	3	7	0	0	1	(1) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 (2) 今後はコンテンツのPRについて検討し、コンテンツの浸透が必要と思います。
5-2	広域連携による観光メニューの充実	道南や東北など近隣地域の多種多様な観光メニューを組み合わせた広域観光メニューの充実	通期	実施段階	・青函圏みなみ北海道連絡会議：当面継続 ・「Goo-Route Hakodate」：終期末定。当面の間は継続	②現状推進	3	7	0	0	1	(1) SNSを併せて活用した方がよいと思います。 (2) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 (3) メニューを商品化するための工夫を検討(民間?)しつつ推進していくべきと考えます。

○秋冬の魅力の向上や発信

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
6-1	秋冬の魅力の発掘と発信	外部専門家あるいは、道外住民、異なる国や地域の外国人をモニターとした秋冬の魅力の発掘と、雪への憧れや興味の高い東南アジア諸国など、誘致効果の高い国や地域へ向けた情報の発信	前期	実施段階	・イベント、商談会、プロモーション：当面継続 ・海外事業、函館市海外観光客誘致促進協議会：今後も継続	①積極推進	7	3	0	1	0	(1) 欧米向けのプロモーション、特にオーストラリアとニュージーランドは四季が逆であることをうまく生かせれば、集客できるように思います。姉妹都市レイクマコーリーとの関係強化も一つの方法です。 (2) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 (3) 函館市と民間で一致協力し函館に外国人観光客を誘致する事はこれからの観光で函館が生き残るキーポイントである。 (4) 秋冬の観光客誘致は重要課題と考えます。特に本施策は民間ではできない規模感のものであり、引き続き積極的な推進が望ましいと思います。 (5) 秋季後半(11月中旬)からは3月までの期間は外国クルーズ船寄港がなくなるため特にアジアからのインバウンドへの積極的な函館の魅力をアピールする意味でも今後も積極的に推進すべきである。
6-2	秋冬のイベントの見直し	秋冬の一層の観光客誘致や滞在日数の増加を図るため、秋冬に開催される既存イベントの見直し	前期	実施段階	・引き続き既存イベントの見直しと新たなイベントの創出についての検討を並行して進める。	①積極推進	5	4	1	1	0	(1) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 (2) 光=イルミネーションを利用するイベント?⇒もしそうなら、冬が長く寒さの厳しいヨーロッパでスタートし、世界中で冬の常識と化している。光の数や規模では大都市に負けるし、新たに立ち上げる事業としては、斬新さに欠ける。従来の光イベントとの棲み分けも不明確である。 (3) 函館YEG重点事業としてイベントに参画。 (4) 引き続き実施をお願いします。 (5) ひかりをテーマにしたイベントは良いと思います。今後はイベントを経済に結び付ける施策検討も必要かと思えます。 (6) 昨年度は地震の影響があったと思われるが紅葉に関連するイベントについて近隣市町村とも連携して当地の宿泊者の増加は見込めないか。

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○魅力ある食・土産品の創造および周知

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
7-1	(仮称) 函館観光物産館の整備検討	首都圏において函館の食と観光情報を継続的に発信する拠点整備の検討	前期	廃止・変更	・アンテナショップ事業：継続	②現状推進	2	4	2	3	0	(1) 八重洲口のアンテナショップに行きましたが、結構函館のものが取り扱われていて、買う人もいたので、2店目にも期待します。 (2) アンテナショップとして世田谷奥沢を選んだ理由を理解できておりませんが、物産品を認知させるためにアンテナショップを活用することは継続した方が良いと思います。 (3) 首都圏から来函者呼び込みの手段としてのアンテナショップの意義は大きいと考える。
7-2	函館朝市ひろば(旧渡島ドーム)を中心とした朝市における食の発信	市民と観光客の交流拠点として新たに整備した函館朝市ひろば(旧渡島ドーム)を中心とした朝市における地域産品や魅力ある食の発信	通期	実施段階	・継続	②現状推進	4	6	1	0	0	(1) 矛立ての顔である朝市のイメージアップにつながるので良い。 (2) 朝市の魅力を観光客だけでなく市民にもPRすることは消費促進にも役立つと思うので今後も積極推進が望ましいと考えます。
7-3	G-site(五稜郭グルメ村)の整備	地域コミュニティ施設と一体となった新たな飲食モールの整備	前期	事業完了	・平成27年度	③廃止・変更	0	1	4	3	3	(1) 廃止変更が適切ではありませんが、現状、本町エリアの賑わい創出、消費拡大に貢献するためには更なる工夫が必要な状態だと感じます。ただ、今後民間主導になるのか観光計画の施策として推進するのは議論が必要だと思います。
7-4	観光物産展の開催および参加	国内外の誘致・宣伝効果が期待できる市場における観光物産展の開催および参加	通期	実施段階	・国内の物産展開催：継続 ・遠東百貨：平成31年度休止 ・海外関係：今後も継続	①積極推進	6	3	0	2	0	(1) どの程度の売り上げ(経済効果)や誘致効果があったのかを明記した方がよいと思います。 (2) 農水産物の移輸出を念頭に置いた、関係機関との連携・計画的な推進が望ましい。 (3) 物産展が必要かどうかはわからない。 (4) 需要拡大に短期で影響をもたらすのは難しいですが、こういった活動は継続していくことで観光客増加、観光消費拡大に貢献するので積極推進が望まれると考えます。ただ、海外プロモーションは行先と目的をより明確化する必要があるかもしれません。 (5) 海外での観光物産展は函館を知ってもらえる絶好かつ貴重な機会である。当面積極的に推進すべきと考える。
7-5	食と観光をテーマとしたイベントの開催	地域ならではの食と観光のPRを目的としたイベントの開催	通期	実施段階	・FOODフェスタ：当面の間継続 ・イベント出店：当面の間は継続 ・グルメサーカス：終期末定。当面の間は継続 ・農水産物PR：平成31年3月事業完了	①積極推進	5	4	1	1	0	(1) 昨年は地震で中止。今後も期待あります。 (2) グルメサーカス、フードフェスタともに集客力のあるイベントであるため積極推進が望ましいと考えます。ただ、マンネリを防ぐ施策、参加者の滞在快適性の向上等、更なる改善の余地はあろうかと思えます。
7-6	幅広い食の周知	市民に支持されている隠れた飲食店や料理など幅広い食の周知	通期	実施段階	・函館フェア：継続 ・Webサイト：継続 ・地域メニュー支援：継続 ・料理等の周知・広報：平成31年3月事業完了	②現状推進	2	7	0	1	1	(1) これは市民向けでしょうか？ (2) 現状では知名度が低い。 (3) 新しい函館の食を生み出す機会となりますので継続期待します。 (4) 各種プロモーションと同様に食の周知も継続的に行うことがより高い効果をもたらすと思うので積極推進が望ましいと考えます。
7-7	食・土産品創造の促進	函館ならではの魅力ある食・土産品創造の促進	通期	事業完了	・土産品の創造：平成28年度 ・販路開拓支援、函館真昆布、日本酒PR：平成31年3月	②現状推進	1	6	0	1	3	(1) 高級路線を狙うなら、都心デパ地下、高級住宅街近辺でチェーン展開している高級スーパーマーケットが効果的と思われる。(長年東京に住んでいたが、赴任3年目の函館でおいしいと思っている食材=函館ブランドを、東京にいた頃、何一つ知らなかった) ex. (三越)伊勢丹、成城石井、大丸、高島屋など (2) 今回の事業で得たノウハウを継続的に活かし、アイテムを増やす努力も必要かと考えます。 (3) 函館真昆布についてはまずは地元民に周知をしてもらうとともに、マスメディア等の有効活用をさらに検討すべきではと考える。

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○市民主体の歓迎

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
8-1	市民と観光客の交流機会の創出促進	市民活動や各種イベントなどを通じた市民と観光客の交流機会の創出促進	通期	実施段階	・終期未定。当面の間は継続	①積極推進	7	1	1	2	0	(1) 「光」久しぶりのテーマです。やはり函館には「光」関連のイベントが似合います。 (2) 前述したとおり観光スタイルが滞在・体験型化に変容してきたことから、今後はますます重要になってくる。単発のイベントではなく、継続的な取り組みによる関係人口づくりを目指すことが重要。 (3) 光＝イルミネーションを利用するイベント?⇒もしそうなら、冬が長く寒さの厳しいヨーロッパでスタートし、世界中で冬の常識と化している。光の数や規模では大都市に負けるし、新たに立ち上げる事業としては、斬新さに欠ける。従来の光イベントとの棲み分けも不明確である。 (4) イベントとして必要。定着感もあり。 (5) 市民と観光客の交流機会創出は観光客の再訪を促すものであり積極推進が望ましいと思います。
8-2	歓送迎イベントの実施	クルーズ客船の寄港時や、北海道新幹線開業時における市民参加による歓迎イベントの実施	通期	実施段階	・新幹線イベント：平成29年3月完了 ・クルーズ客船イベント：終期未定	②現状推進	3	5	2	1	0	(1) クルーズ船の寄港数が急増していて、寄港数よりもイベント数が相当少ないように思います。廃止して街中でのイベントを増やすべきです。 (2) 観光客誘致には必要不可欠。 (3) 特に学生、生徒により歓迎イベントは観光への意識付け、お客様をお迎えする原体験となり得る可能性もあり継続が望ましいと考えます。 (4) クルーズ船の入港・出港の際にはデッキからその様子を見る乗船客が非常に多い。イベント形態は様々だが、函館の好印象を残してもらえるいい機会である。
8-3	道路緑化活動の実施	歓迎ムードを盛り上げることを目的とした、官民一体での沿道の植樹ますの花植えや維持管理の実施	通期	事業完了	・今後も継続する		5	5	0	1	0	(1) 町の美化に大きく貢献。 (2) 道路緑化は観光客の動線を綺麗に維持するために必要と考えます。 (3) まち中でみられる花と緑はそれだけで好印象を持ってもらえる。町会諸団体に協力を仰ぎ継続してもらいたい。
8-4	環境美化に関する活動の推進	ボランティア制度を活用した簡易清掃や貼り紙の除去など、きれいな街並みの維持に関する活動の推進	通期	事業完了	・「春のクリーン・グリーン作戦」 期間4月1日(日)～4月30日(月) ・「秋のクリーン作戦」 期間10月1日(月)～10月31日(水)	①積極推進	5	4	1	1	0	(1) 町の美化に大きく貢献。 (2) 環境部主体でなくても諸団体の活動で同内容の取り組みが継続できれば良いと思います。 (3) まち中でみられる花と緑はそれだけで好印象を持ってもらえる。町会諸団体に協力を仰ぎ継続してもらいたい。

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○ホスピタリティ意識の醸成および顕在化

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
9-1	接遇研修等の充実	観光関連従事者を対象とした、時代のニーズに対応した接遇研修等の充実をはじめ、国・地域別の外国人旅行者ニーズに対応した各種研修等の充実	通期	実施段階	・今後も継続	②現状推進	4	5	1	1	0	(1) セミナー参加者からの意見や要望をどのように反映させるのか、こうした評価シートにも明記してほしい。 (2) どんどん実施希望。推進希望。 (3) 今後も目的別、もしくは対象者別など様々な角度から研修の場を提供することは必要と考えます。 (4) 観光関係者のみならず、外国語能力を活かせる市民の掘り起こしにつながる。
9-2	国際交流の支援	国際交流関係事業への支援や小学生などを対象とした国際理解教育の推進	通期前期	実施段階	・国際交流事業活動補助金：毎年度実施 ・中学生海外派遣事業：平成30年3月31日事業完了	②現状推進	2	6	1	2	0	(1) 子供たちの感想文などをWEBにあげる等の取り組みが必要です。 (2) 今後重要となる関係人口づくりを目的として、事業のあり方のリニューアルが重要。 (3) 良い取り組みとは思いますが、人的交流を観光施策と捉えることの意義を再検討すべきように思います。
9-3	まちあるき休憩ベンチの設置	まちあるき観光の利便性向上のほか、市民と観光客のふれあいの場となる「まちあるき休憩ベンチ」の設置	前期	事業完了	・平成26年度事業完了		0	2	3	3	3	(1) 今後重要となる関係人口づくりを目的として、事業のあり方のリニューアルが重要。 (2) ベンチ、ごみ箱、トイレなどの整備は街歩きを推進するのであれば必要性が高まると思いますので今後、予算が確保できるのであれば推進すべきと考えます。
9-4	だれでも利用できる施設への改善	観光関連施設を対象とした段差の解消、スロープや手すりの設置、点字表記などの促進	通期	未着手	・今後、緊急に整備等が必要な箇所があると認められた場合、対応を検討する。	④保留	0	2	1	5	3	(1) LGBTQや障害者、異文化等をはじめとしたユニバーサル化という視点は重要。民間事業者や都市建設部との連携により展開してほしい。 (2) スロープや手すり、点字ブロックなどについて定期的な点検の継続は必要と思います。
9-5	市民および観光事業者の意識啓発	講演会や市の広報紙などを通じた市民および観光事業者へのホスピタリティ意識向上の取り組み	通期	実施段階	・今後も継続	②現状推進	3	5	2	1	0	(1) セミナー参加者からの意見や要望をどのように反映させるのか、こうした評価シートにも明記してほしい。 (2) 5年程度を区切りとしてテーマ設定し、戦略的に函館にとっての観光のあり方を発展させることを目標とすることが重要。 (3) 9-1との統合が望ましい。 (4) どんどん実施希望。推進希望。 (5) 意識啓発は即効性は低いものの意義があると思います。今後はテーマ性をもって継続する方が良いと思います。 (6) 観光関係者のみならず、外国語能力を活かせる市民の掘り起こしにつながる。
9-6	観光客の安全・安心を守る体制の整備	災害等の非常時に、国内外の観光客の安全・安心を確保するための関係機関との協力体制および必要な方策の確立	前期	事業完了	・平成28年度事業完了 ※今後も災害等の非常時を想定し、効果的な協力体制の検討を必要に応じて行っていく。	②現状推進	1	4	1	2	3	(1) 災害対策等についてさらなる検討を進めてほしい。 (2) 非常時の備えは必要。BOUTの例もあり教訓として。 (3) 「廃止・変更」が適切ではありませんが、仕組みの確立だけでなく防災への取り組みを外に向けて発信していくことも今後は必要なのかもしれないと考えます。 (4) インバウンドについての対応はどのようになっているか。

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○人材の育成

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
10-1	観光ボランティア団体の活動促進	新たなボランティアとの連携、観光ボランティア団体への助成、研修支援などによるボランティア活動の促進	通期	実施段階	・本計画終了時まで引き続き観光ボランティアガイドの育成等、活動促進に努める。	②現状推進	4	5	1	1	0	(1) 前述したとおり観光スタイルが滞在・体験型化に変容してきたことから、分かりやすい窓口、有償化、異文化交流や関係人口づくりといったことを前提としたあり方の再検討が重要。 (2) 個人型旅行への変化に対応に必要である。 (3) 有償ガイドとのすみわけ、役割分担を確認しながら推進していくことが良いと思います。 (4) まちあるきボランティアガイドの高齢化がみられる。若手ガイドの育成は急務か。
10-2	「函館歴史文化観光検定」の普及・検定合格者の活躍促進	多様な媒体を通じた「函館歴史文化観光検定」(はこだて検定)の普及および検定合格者の観光関連事業への参画、活躍の場の提供	通期	実施段階	・本計画終了時まで引き続き本検定の普及等に努める。	②現状推進	4	5	0	2	0	(1) 私は上級よりも初級合格者に継続的な活躍の場を与えた方がよいと思います。 (2) 前述したとおり観光スタイルが滞在・体験型化に変容してきたことから、観光や学校・社会教育、あるいは潜在化する地域資源の発掘等との連携強化が重要。 (3) 必要であると思慮します。 (4) より多くの人が検定受験ができる環境整備も含め積極推進が望ましいと思います。
10-3	有償観光ガイドの育成	観光客の満足度をより一層高めるため、各種ガイドのプロ化実現を目指した有償観光ガイドの育成	後期	実施段階	・本計画終了時まで引き続き観光ガイドの育成等に努める。	②現状推進	4	5	0	2	0	(1) 令和元年度から本格的に実施されるのでしょうか？ (2) 公民連携を前提とした取り組みの支援、DMOとの連携が重要。 (3) 個人型旅行への変化に対応に必要である。 (4) 日本で有償ガイドというと山岳リゾートなど限られている印象が個人的にはありますが、観光地の有償ガイドを育成し観光を生業とできる人を増やすことは大切だと思います。 (5) 育成方法及びその成果はどうなっているか。
10-4	通訳ガイドの育成	外国人観光客へのきめ細やかな対応が可能な通訳ガイドの育成	前期	実施段階	・未定	④保留	1	1	1	6	2	(1) 公民連携を前提とした取り組みの支援、DMOとの連携が重要。 (2) 存在すると非常に活用できるので。 (3) 観光地の有償ガイドの一つの条件として国籍問わずガイドができることが望ましいと思いますので上記有償ガイドの育成に含めて良いと考えます。 (4) 育成方法とは。

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○市内における観光情報の充実

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
11-1	多言語表記・対応の充実	観光情報の多言語表記や、函館市公式観光情報サイト「はこぶら」内の外国語サイトの充実、観光案内所における多言語、多文化への対応	前期	実施段階	・観光説明版：平成31年度に盤面の貼り替えに合わせ、QRコードを活用した多言語化整備を行う。 ・外国人コンタクトセンター：今後も継続	①積極推進	6	5	0	0	0	(1) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 (2) QRコード化については、上記2-2と重複? (3) 外国人観光客はこれからも大きな存在で期待有。 (4) コンタクトセンターの存在自体をPRすることも必要かと思います。また、時間帯によっては対応が遅れることもあるかと思いますので運営の改善方法も議論した方が良いと思います。 (5) この数年充実してきているが外国人環境客からは設定ヶ所や多言語対応ではまだまだ十分ではないという指摘がある。今後も積極的に推進すべきと考える。
11-2	カード利用可能情報の提供	国内外で発行されている電子マネーやクレジットカードが利用可能な施設やATM情報などの提供	前期	実施段階	・今後も継続		5	5	1	0	0	(1) 銀聯など、中国圏で使用可能な電子マネー対応店舗を増やすべきです。 (2) 支払い決済手段の多様化(=キャッシュレス)への対応が喫緊の課題である。 (3) 現状推進で良いと思います。 (4) カード・両替情報は外国人観光客からたずねられる頻度の高い情報。可能施設数の増加(特に休日)が求められている。
11-3	テーマ別観光情報の発信	秋冬観光、滞在観光、国・地域別、観光客、ビジネス客、富裕層、高齢世代などテーマ別の観光情報発信の充実	通期	実施段階	・「はこぶら」：当面継続 ・「函館イベントガイド」：終期未定。当面の間は継続		5	5	1	0	0	(1) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 (2) 利用者数、アクセス数などの統計データが必要。⇒結果次第では廃止 (3) はこぶらは観光情報サイトとして他地域のものに比しても、とても充実していると思います。SNSの時代とはいえ基幹サイトが充実していることは必要だと思うので積極的継続を望みます。 (4) 「はこぶら」は日本人観光客のみならず外国人観光客にとっても非常に有益なサイト。テーマ別情報内容は利用者には有り難い。さらなる充実を期待します。
11-4	Wi-Fiの推進	交通拠点、観光施設、商業施設などのWi-Fi利用環境の整備と利用可能箇所の情報提供	前期	実施段階	・今後も継続 ・他部局との連携が必要のため未着手	①積極推進	9	2	0	0	0	(1) まだまだ使えるエリアが限られています。より広範囲で使えるようにしていく必要があります。 (2) とにかく無料で簡単に利用可能なWiFiを張り巡らすことが一番効果的だと思います。そうすれば、様々なコンテンツの電子化やSNSによる口コミ戦略との相乗効果も生まれて、既存のコンテンツももっと有効活用できると思います。 (3) 必要不可欠事項。 (4) 災害時対応は最新情報を反映したものにすることも定期的にアップデートすべきと思うので積極推進が望ましいと考えます。 (5) 非常に使いにくい。(接続までの手間がかかる) (6) 外国人観光客にとってFree-Wifiの充実度は重要な訪問地評価の1つ。利便性ととも安全性も含めての推進が必要。
11-5	観光情報の提供場所の拡大	観光情報を入手できる場所の拡大	前期	実施段階	・今後も継続的に実施予定。	②現状推進	3	6	1	1	0	(1) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 (2) 繁忙期に対応窓口を増やすことは観光客の利便性も高まると思うので積極推進が望ましいと思います。 (3) 現在の五稜郭タワーでの窓口はGW期間と夏のお盆期間に実施されているが日本人観光客のみを対象にしている。外国人観光客へも最低英語での対応が完璧なスタッフもおくべきである。またこの事業は新年度の早い段階で日程等を各団体へ提示することも求められる。昨年度函館国際観光コンベンション協会にも申し入れをしているが今年度はGW期間でまだ実現をみていない。早急に対応をすべきと考える。

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
11-6	(仮称)観光センターの整備検討	函館観光のワンストップサービス機能を持った拠点施設の整備について検討	前期	検討段階	・引き続き、地域の官民の関係者との役割分担の在り方などを踏まえて、効果的な施設整備について検討を重ねていく。		2	4	1	4	0	(1) DMO設置との絡みもあり、しっかりとした議論の後に設置すべきです。 (2) 過疎化や札幌への一極集中が極端に進む函館の現状において、観光を地域再生のためにいかに活用するかが重要となっている。単なる観光案内所やプロモーション組織ではなく、観光まちづくりのためのDM機能をもつ機関を設置することが重要。 (3) 現存する観光関連の団体、施設等の整理・統合が先。(複雑多岐にわたり、重複業務目立つ) (4) 既存のスキームに捉われず、今後の函館観光がどうあるべきか或いは持続可能社会の実現のための観光業であるために何をすべきかしっかり議論をして推進すべきと考えます。 (5) 今後施設を構えてまで本当に必要なのかを検討していただきたい。
11-7	函館市まちかど観光案内所の充実	函館市まちかど観光案内所の周知と機能の拡大	前期	実施段階	・今後も継続的に実施予定。	②現状推進	3	4	1	3	0	(1) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 (2) 取り組み自体は素晴らしく、今後はコンビニ、レンタカー会社以外でも更に場所を増やした方が良いと思います。
11-8	バス、路面電車における観光情報の提供	バス・路面電車の停留所における観光情報の発信および車内でのアナウンスを通じた観光情報の提供	前期	実施段階	・音声案内サービス：平成28年4月完了 ・市電車内観光情報提供、車内放送：引き続きわかりやすい表記をしていくとともに、多様化する多言語化への対応も検討していく。	①積極推進	6	3	1	1	0	(1) 前述したとおり観光スタイルが滞在・体験型化に変容してきたことから、今後は観光客向けについても、函館の公共交通のあり方を検討する一環として取り組むことが重要。 (2) 新しいハードウェアを導入するよりは、十分なWiFi環境と、タイムリーに情報にアクセスできるポータルサイト(はこぶらのような)の充実化を図るのが効果的ですし、今後の継続的な発展(コンテンツの更新や多言語対応など)にもつながると思います。 (3) 外国人観光客はこれからも大きな存在で期待有。 (4) 音声案内は多言語化が難しいように思います。車内での案内は行先、運賃など必要なものを優先で観光情報などは緊急性の高いものを除き、ほかの手段を活用することで対応できると思います。 (5) 繁忙期の五稜郭タワー周辺の交通渋滞が多く、路線バスも大幅に遅延が発生している。 (6) 市電・函館バス内の外国語での車内放送はかなり充実してきているが空港と市中心部を結ぶ路線では2019年2月時点で対応がされていないバス会社もある。外国人観光客には不親切に思われる。このあたり会社によって差がでないような対応も必要。

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○多様な媒体を通じた情報の発信

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
12-1	電子媒体を通じた情報発信	「はこぶら」スマートフォン用サイトや「観光等案内情報端末」の運用など電子媒体による情報発信の充実	前期	実施段階	・「おいしい函館」：継続 ・「函館イベントガイド」：終期未定。随時実施	②現状推進	4	6	1	0	0	(1) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 (2) 必ずしも新しいものを増やすのではなく、ポータルサイトをはっきりさせる方が良いように思います。 (3) これからも力を入れていただきたい案件。 (4) 情報はアップデートと継続が必要だと思いますので、現状推進が望ましいと思います。 (5) 実際に現地を歩いて観光する際にスマホ等機器は手放せないものでこれらユーザーに使いやすいサイトを維持していくことが求められる。
12-2	紙媒体を通じた情報発信	新聞、雑誌など紙媒体への情報発信の充実	通期	実施段階	・当面継続 ・未定。随時実施	②現状推進	2	7	1	1	0	(1) 観光誘致の必要である。 (2) 紙媒体よりネット上の情報の方が優位性が高まっていますが、紙媒体の情報は閲覧性、回覧性があり推進する価値はあると思います。 (3) 地元民を呼び込むためには新聞雑誌による情報周知は有効である。
12-3	放送媒体を通じた情報発信	テレビ、ラジオなど放送媒体への情報発信の充実	通期	実施段階	・市内FM放送、テレビ、首都圏イベント等による情報発信：当面継続 ・はこだてグルメサーカスPR：未定。随時実施	②現状推進	2	9	0	0	0	(1) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 (2) イベント情報などに効果有。花火大会の有無などにも有効活用。 (3) メディアへの露出はイベントPRに欠かせないと思いますので現状推進が好ましいと考えます。 (4) マスメディアへの情報発信は今後も積極的に推進が必要。(はこだてグルメサーカスの開催場所の確保はどうなる?)
12-4	宿泊施設を通じた情報発信	滞在客や再来訪客などタイプ別観光客のニーズを想定した宿泊施設による情報発信の充実	通期	実施段階	・宿泊施設へのパンフレット等設置：当面継続 ・「函館イベントガイド」関連：未定。当面の間は継続	②現状推進	3	8	0	0	0	(1) インバウンド向けの内容も情報発信した方がよいと思います。 (2) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 (3) 観光客に認知していただく上で必要。 (4) ホテルでイベント情報等を確認するお客様は多いので、現状推進が望ましいと思います。

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○交通アクセス環境の整備

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
13-1	高速交通ネットワークの整備促進	新函館北斗駅および函館空港にアクセスする函館新外環状道路など高速交通ネットワークの整備促進	通期	実施段階	<p><完了予定時期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・函館新外環状道路 赤川IC～函館空港IC：令和2年度(2020年度) ・函館江差自動車道 北斗茂辺地IC～木古内IC(仮称)：令和3年度(2021年度) ・北海道縦貫自動車道 大沼公園IC～七飯IC(仮称)：未定 ・国道278号尾札部道路 豊崎～大船間：未定 ・国等に対し、上記路線ほか関係路線の整備促進等にかかる要望活動：事業完了まで継続 	①積極推進	7	4	0	0	0	<p>(1) 国や政府へのより一層の働きかけが求められていると思います。</p> <p>(2) 早期実現に向け推進して頂きたい。</p> <p>(3) 交通インフラの整備は観光促進に必要なと思われるので積極推進が望ましいと考えます。</p>
13-2	駐車場情報の提供	自家用車やレンタカー利用者に対する駐車場情報の提供	通期	実施段階	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も駐車状況や渋滞状況を確認しながら、チラシのリニューアルや効果的な渋滞緩和対策を関係企業や団体等と協議し、実施継続していく。 		4	4	1	1	1	<p>(1) 視覚化・電子化が遅れています。スマホに対応したわかりやすい情報提供が必要です。</p> <p>(2) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。</p> <p>(3) 観光誘致の必要である。</p> <p>(4) 渋滞緩和対策は必要であるため、ちらしが今後も適正な手段であるかは検討しつつも継続が好ましいと考えます。</p> <p>(5) 近年、函館地区においてもマイカーに加え、レンタカー利用者が増えている。</p>
13-3	バスの利便性の向上	バス路線網の再編や停留所上屋の整備および利用しやすい料金体系の導入検討	後期	検討段階	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年(2021年)より路線網の再編を実施予定。 	①積極推進	7	3	0	0	1	<p>(1) 4月からは路線番号が一新されました。</p> <p>(2) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。</p> <p>(3) 二次交通インフラの整備は観光客の利便性のみならず、利用者全てにとって有益と思われるので、積極的推進が望ましいと考えます。</p> <p>(4) ターミナル(乗り場の整理は必須)であり、五稜郭、湯の川など主要乗り換え拠点箇所を集約するなど整備の必要がある。</p> <p>(5) 函館山山頂への登山バスは通常午後からの運行であるが、ロープウェイ点検期間中の運行をバス会社と協議し午前中からすることはできないのか。この期間はタクシー・マイカーと歩いてしかあがれないのは観光資源が有効活用されていないように思われるが。</p>
13-4	路面電車の利便性の向上	ICカード導入や均一料金制導入の検討のほか、デザイン性が高く利用しやすい電停の整備	後期	事業完了	<ul style="list-style-type: none"> ・「ICAS nimoca」導入：平成30年3月完了 ○電車停留場改築 ・函館駅前：平成26年度 ・五稜郭公園前：平成27年度 ・中央病院前：平成28年度 ・松風町、千代台：平成29年度 	②現状推進	4	5	0	0	2	<p>(1) ICASnimocaカードが使える店舗数を増やし、もっと利便性を向上させるべきです。</p> <p>(2) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。</p> <p>(3) 函館の名物の一つの市電は活用して行きたい。</p> <p>(4) 道外観光客から利便性が高いという声を聞くので導入は成果があったと思われます。</p> <p>(5) 函館駅前の十字街方面の停留所では時折安全地帯からはみ出て待っている場面が見られる電車の進入時に危ない場面もある。乗車位置での待ち方についての方策が必要と感じる。</p>
13-5	タクシーの利便性の向上	乗り合いタクシーや定額タクシーなど、観光客にとって利用しやすい運行形態および料金の検討	前期	事業完了	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年3月完了 	②現状推進	1	7	0	1	2	<p>(1) 前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。</p> <p>(2) 定額タクシーは観光客には親切的な仕組み。</p> <p>(3) ライナーと比較し割高という印象を持たれがちではあるものの、移動手段の選択肢のひとつとして現状推進が好ましいと思います。</p> <p>(4) 高齢化時代に入っており、いわゆる福祉車両のタクシーをさらに増やしてもらいたい。</p>

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○空港・港湾機能の充実

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
14-1	国際航空路線の拡充促進	新規路線の開設促進やチャーター便の運航拡大、新たな航空会社の参入促進など国際航空路線の拡充促進	通年	実施段階	・未定	①積極推進	8	2	0	1	0	(1) 早急に台湾便以外の国際線の復活やLCCの復活を目指すべきです。 (2) アウトバウンドツーリズムの推進。 (3) プライベートジェット客の取り込み。 (4) 成果がなさすぎる。 (5) これは増やすのは当然のこと。廃線は函館の存在を否定する事。 (6) 国際線の拡充促進は今後の函館観光に欠かせないと思います。できることに限りはあるかもしれませんが、積極推進が望まれると考えます。
14-2	国内航空路線の拡充促進	新規路線の開設促進、既存路線の充実、休止路線の再開促進、新たな航空会社の参入促進など国内航空路線の拡充促進	通年	事業完了	・平成31年3月31日	①積極推進	4	2	0	2	3	(1) 成田・関空発着のLCCを改めて誘致すべきです。 (2) 路線を増やしていただきたい。 (3) 国際線と同様に国内線の拡充促進も必要と思われるため、積極推進が望まれると考えます。
14-3	大型旅客船ふ頭の整備推進	観光客と市民の交流拠点、賑わいと魅力ある港湾空間となるような大型旅客船ふ頭の整備促進(若松地区)	後期	実施段階	・平成30年代前半完了予定	①積極推進	6	4	0	1	0	(1) 埠頭だけでは不十分です。一日も早くターミナルビルを建設してほしいと思います。 (2) 若松埠頭近辺にターミナル・一次滞在施設の整備、およびベイエリアまでの遊歩道整備(ウッドデッキ整備や屋台やコンテナハウス等の仮設店舗誘致のための施設整備)があるとよい。 (3) 大型船も着岸できるようになる予定と聞いています。 (4) クルーズ船の乗り入れによる経済効果の検証は必要だと思いますが、ふ頭の整備推進は必要だと思います。 (5) H31年4月以降若松埠頭に寄港する外国クルーズ船乗船客からの評判はすこぶる高い。更に近い将来大型船の寄港が可能になるような埠頭整備が求められる。
14-4	親水空間の整備推進	港や海に接することができる港湾空間の整備および歴史的港湾施設の保存修復(末広地区の整備検討)	後期	実施段階	・平成32年度(2020年度)完了予定	①積極推進	5	4	0	2	0	(1) 若松埠頭近辺にターミナル・一次滞在施設の整備、およびベイエリアまでの遊歩道整備(ウッドデッキ整備や屋台やコンテナハウス等の仮設店舗誘致のための施設整備)があるとよい。 (2) 護岸の緑地整備は景観上、安全上必要と思われるので積極推進が望ましいと考えます。
14-5	旧函館ドック跡地の整備推進	市民や観光客が「海」と「科学」にふれあうことができる、水産海洋分野の新しい形の研究施設の整備推進	前期	実施段階	・平成26年6月に函館市国際水産・海洋総合研究センターの運用開始 ・平成34年度(2022年度)完了予定(弁天地区の緑地整備)	②現状推進	1	7	1	2	0	(1) 観光と結びつけることに若干の違和感がある。修学旅行でのコースとして取り入れられているのであれば良いが。 (2) 景観を残しつつ整備必要である。 (3) 海洋センターの認知度も上がり科学祭でも使われることにより水産海洋分野を観光資源とすべく役割を果たしていると考えられるので現状推進が望ましいと思われます。 (4) 函館市民に施設自体の存在を知らない割合の方が多く積極的に利用促進などアナウンスしていく必要がある。

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○周遊性の向上

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
15-1	周遊チケット等の充実	はこだてチケットやはこだて旅するパスポートなど、周遊チケットの充実と継続的販売	通期	実施段階	・当面継続	②現状推進	1	9	0	1	0	(1) 広域圏の地域情報に関する共同での受発信が重要。(特別なことでもなく、どこに行っても同様の情報が手に入ること) (2) チケット内容の見直し等, 利便性を高めるための協議を定期的実施しつつ, 観光客の周遊性を向上させる施策として現状推進が好ましいと思います。 (3) 函館近郊を周遊するツールとして一定の効果があったと認識している。1日券の販売を開始してから更に販売増につながっていることから継続する必要がある。
15-2	周遊促進イベントの実施	渡島東部の隠れた魅力を巡るスタンプラリーの実施など、周遊促進イベントの実施	後期	検討段階	・自然景観や縄文遺跡群などの観光資源を活用した周遊促進策について今後検討したい。	②現状推進	2	7	1	1	0	(1) 広域圏の地域情報に関する共同での受発信が重要。(特別なことでもなく、どこに行っても同様の情報が手に入ること) (2) 情報交換にとどまらず, 今後は民間を交えて具体的なイベント開催に向けた協議ができると良いと思います。 (3) 来函されるお客様のニーズに即したものであれば。
15-3	移動支援手段の充実	電動アシスト付き自転車レンタルサービスの充実や超小型電気自動車などの新たな移動支援手段導入の検討	前期	事業完了	・平成29年4月29日(機構解散後, 民間事業における事業開始日)		2	3	1	3	2	(1) 国内外の自転車メーカーとの連携・協力事業化も視野に入れるべきです。 (2) 自転車をふくめ, FITに対応した二次交通手段について, 公民連携で検討し, 早急に整備を進めることが重要。 (3) 事業内容は函館観光に必要なと思いますが, 事業として採算が取れないのであれば別のビジネスでモデルで継承するなど工夫が必要だと考えます。 (4) レンタル自転車の需要が増加していることから継続が望ましい。 (5) レンタサイクルについて: 自転車で観光地をまわるツアーが若中年層を中心に全国的に人気が出てきている。

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

OMICE受け入れの強化

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
16-1	新たなMICE受け入れ施設の整備	函館アリーナや函館フットボールパークなど、スポーツイベント、コンベンション、会議等に対応できる新たな施設の整備・活用	前期	実施段階	・継続実施 ・整備活用については、引き続き検討実施する	①積極推進	7	4	0	0	0	(1) 大森海岸等の教育観光やインセンティブツアーに対応可能で潜在化する空間や施設がまだまだ多く残されている。これらの価値をMICEの視点から再発見し、戦略的に活用方策を立てて、公民連携で活用・整備することが重要。 (2) 移動手段が十分に用意できるのであれば、海洋センターや未来大も活用できると良いと思います。 (3) 大きな学会などの誘致に期待する。 (4) MICE誘致にはユニークベニューの提供が必要だと考えます。日本国内は歴史的建造物などをMICEで活用することに積極的になれない場所が多いようなので、先んじて複数のユニークベニューでMICEを受け入れられるようにするためにも積極推進が望ましいと考えます。 (5) MICE誘致の経済効果は大きいものがある。積極的に推進すべきと考える。
16-2	割引パスポートの充実	MICE参加者が受けられる割引対象施設の拡大や割引内容の向上など、割引パスポートの充実	前期	事業完了	・平成30年5月リニューアル完了	②現状推進	1	6	0	2	2	(1) 割引パスポートを利用する層の確認と、内容の見直しは定期的実施すべきと考えます。 (2) MICEに参加される人達に対して本当に必要なか？正規料金でも良いのではないのでしょうか。 (3) 今後も使用施設の参加者に対しての観光施設の割引等の提供は継続すべきと考える。
16-3	MICE対応窓口機能の強化	MICE主催者からの各種要望に対応できる窓口機能の充実	前期	実施段階	・継続実施		5	5	0	1	0	(1) 大きな学会などの誘致に期待する。 (2) MICEは対応すべき事柄が多岐にわたるので窓口機能がしっかりしていることは望ましいと思います。 (3) 「臨時観光窓口」の設置については、特に大人数の会議の際に既存の観光ガイド団体に依頼してはどうか？日程等が事前にわかれば対応はしやすいと思われる。親切な情報提供ができると思われる。
16-4	エクスカーションの充実	縄文文化や豊かな自然景観に恵まれた渡島東部4地域などを巡るエクスカーションコースの創出	前期	実施段階	・継続実施		5	5	1	0	0	(1) 他の事業との差別化が必要。 (2) MICE誘致にはユニークベニューであることも大切ですが、前後のプログラムの充実も欠かせないといわれており、会場のPRだけでなく街の魅力も併せてPRすることが求められると思います。 (3) 函館のみならず近隣市町村を含めた観光コースの創出はリピーター増加につながると思われる。縄文文化についても外国人観光客には近年全国的に感心が高まりつつある。地元のガイド養成も求められる。
16-5	宿泊施設による受入体制の強化	MICE主催者および参加者特有の様々な個別ニーズに対応できる受け入れ体制の強化促進	通期	実施段階	・継続実施	②現状推進	2	6	1	2	0	(1) 企業努力としては必要不可欠だが、市の事業として行うべき理由が不明。 (2) 本来であれば宿泊施設が積極的に打ち合わせを行うべきであり、観光基本計画において実施するより各宿泊施設が働きかけ打ち合わせができている状態を作ることが望ましいと思います。
16-6	ユニークベニューの活用	函館山ロープウェイ展望台や旧函館区公会堂など、函館ならではの特別な場所・施設を活用したMICEの開催促進	後期	実施段階	・継続実施	②現状推進	4	6	0	1	0	(1) 大森海岸等の教育観光やインセンティブツアーに対応可能で潜在化する空間や施設がまだまだ多く残されている。これらの価値をMICEの視点から再発見し、戦略的に活用方策を立てて、公民連携で活用・整備することが重要。 (2) 大きな学会などの誘致に期待する。 (3) 重複しますが、ユニークベニューの活用は今後のMICE誘致には欠かせないので積極推進が望ましいと思います。

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○祝祭都市に向けた取組み

番号	具体的取組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
17-1	各種イベントの観光資源化	はこだて国際民俗芸術祭、函館野外劇、はこだて国際科学祭、バル街のほか各種周年事業など、函館でしか味わえない、または函館発祥のイベントの宣伝を強化	通期	実施段階	<ul style="list-style-type: none"> ・はこだて国際科学祭：事業終了時期は未定 ・はこだて西部地区バル街：継続 ・「函館イベントガイド」関係：終期末定。当面の間は継続 ・はこだて国際民族芸術祭：事業完了予定時期は団体の申請により検討する 	①積極推進	6	4	1	0	0	<p>(1) イベント都市という売り込みは世界的には恥ずかしいので、必要であれば民間に任せる方がよい。あるいは、生活者目線(関係人口づくり)での取り組みに転換する。</p> <p>(2) イベントを増やし継続し認知いただく事で集客に繋ぐ。</p> <p>(3) 各種イベントについて情報共有、発信、集客等のやり方を共有できるプラットフォームづくり、イベントが観光資源となる過程で人と人がつながる仕組みづくり、啓蒙活動なども視野にいたした議論ができると良いと思います。</p> <p>(4) 「国際民族芸術祭」「函館野外劇」「西部地区バル街」は地元民のみならず徐々に観光客にも知られるようになってきている。今後も積極的に推進すべきと考える。なおバルの開催時期についてはこれまで日曜開催となっているが、土曜開催することで観光宿泊者数を増やせるのではないかと。</p>
17-2	各種イベントの支援	各種イベントに対する支援の実施	通期	実施段階	<ul style="list-style-type: none"> ・コンベンション開催補助金：1件 平成31年3月31日 30万円支給 ・フェスティバルタウンミーティング：終期末定。当面の間は継続 	①積極推進	4	3	1	1	2	<p>(1) イベント都市という売り込みは世界的には恥ずかしいので、必要であれば民間に任せる方がよい。あるいは、生活者目線(関係人口づくり)での取り組みに転換する。</p> <p>(2) 広報やバスの手配などで大変お世話になりました。交付金などは、双方の手間のことを考えると、あまり必要ないのではないかと考えます。引き続き、情報や関係者とのネットワーキングにおいてご支援いただくと大変ありがたいです。</p> <p>(3) 予算を組んでいただきたい。</p> <p>(4) 上記と重複しますが、市民、行政、民間、団体など広くイベントに係わる人達が集まりやすい環境づくりを支援することは必要だと考えますので積極推進が望ましいと思います。</p> <p>(5) 一定レベルのイベントの質を維持するためには補助は必要と考えるがその効果については慎重に分析する必要があります。</p>

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○誘致宣伝活動の実施

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
18-1	国内外での誘致宣伝活動の実施	北海道新幹線開業により今後集客が期待できる首都圏・北関東・東北のほか、東南アジア地域を中心とした海外での誘致宣伝活動の実施	通期	実施段階	・国内の誘致宣伝活動：当面継続 ・海外の誘致宣伝活動：今後も継続	①積極推進	8	2	0	1	0	(1) 経税効果の定量的分析を行い、効果の「見える化」を図るべきです。 (2) トツプロモーションをしたら必ず結果を残す事が大事であるお祭りではないのでいけば良いということではないと考える。必ず実を实らせる事が必要である。 (3) 国内外を問わず誘致活動は継続してこそ意義があり、今後も積極的推進が望ましいと考えます。 (4) ネット社会と言われる時代になったが、加えて実際の実演・実物を見たり、触れたり・食べたりする機会の効果は大きい。今後も可能な限り積極的に推進すべきと考える。
18-2	MICEの誘致宣伝活動の実施	MICE開催予定の企業・団体への個別誘致をはじめとした積極的な誘致宣伝活動の実施	通期	実施段階	・継続実施	①積極推進	7	3	0	1	0	(1) 16-1との関係は？誘致PRと、受け入れ体制の連携が望ましい。 (2) プロモーションをしたら必ず結果を残す事が大事であるお祭りではないのでいけば良いということではないと考える。必ず実を实らせる事が必要である。 (3) 大型コンベンションの誘致は近隣宿泊施設及び飲食店に対する訴求効果が見込まれるので積極推進が望ましいと考えます。 (4) ネット社会と言われる時代になったが、加えて実際の実演・実物を見たり、触れたり・食べたりする機会の効果は大きい。今後も可能な限り積極的に推進すべきと考える。 (5) MICE誘致の経済効果は大きいものがある。積極的に推進すべきと考える。
18-3	修学旅行の誘致宣伝活動の実施	市内宿泊施設、教育・文化施設、体験施設などとの連携および近隣地域との広域連携を生かした修学旅行の誘致宣伝活動の実施	通期	実施段階	・当面継続		5	5	0	1	0	(1) 函館の何を見せるか？昨年企画部で作成した小学生向けDVDを配付するのはどうか。 (2) プロモーションをしたら必ず結果を残す事が大事であるお祭りではないのでいけば良いということではないと考える。必ず実を实らせる事が必要である。 (3) 大型宿泊施設においては重要マーケットであるため、積極推進が望ましいと思います。
18-4	寄港および就航要請活動の実施	クルーズ船運航会社に対する寄港要請や新規航空会社等に対する就航要請活動の実施	通期	実施段階	・航空会社関連：今後も継続 ・クルーズ客船誘致：未定	①積極推進	7	3	0	1	0	(1) 寄港数の急増で港湾機能が麻痺しないように工夫が必要。 (2) 定期航路便は切らせないで欲しい。 (3) 継続性のある営業活動の効果が出ており、なかなか思った通りの展開を見せないこともあるかもしれませんが、特にアジア圏においては継続的な関係構築が必要だと思われるので積極推進が望ましいと考えます。
18-5	「はこだてフィルムコミッション」の活用	「はこだてフィルムコミッション」のおすすめロケ地などの一層の充実や、過去に撮影された映画の活用	通期	実施段階	・終期末定。当面の間は継続	①積極推進	5	3	1	2	0	(1) Webの内容、英語での案内を見直してはどうか。 (2) はこだてフィルムコミッションの活用は必要と思います。ただ、配布物については設置、配布にとどまっている感があるので、積極的活用方法について討議すべきと考えます。 (3) 当地を訪れる観光客の中にはロケ地に感心を持つ人達も多い。

■委員評価分類：①積極推進 ②現状推進 ③廃止・変更 ④保留 ⑤未評価

○長期戦略形成へ向けた取り組み

番号	具体的取り組み	概要	実施時期	進捗状況評価	進捗状況に係るコメント	アドバイザー会議としての中間評価(案)	委員評価(人)					委員評価に関するご意見等
							①	②	③	④	⑤	
19-1	観光アンケート調査の実施	観光アンケート調査の継続実施	通期	実施段階	・本計画終了時まで、引き続き今後の観光施策に活用できるような調査を実施する。	①積極推進	6	4	0	1	0	(1) DM機能を構築することを目的に調査内容・分析方法について、あり方や内容について再度見直しをする。また公民連携による分析、および分析情報の共有を行う。必要に応じて、受益者負担のあり方を検討する。また、箱館会等が収集・ストックする情報についても、ビッグデータや経年データとしての価値が見込まれるため、積極的な共有や活用を検討する。 アンケートは必要である。 (2) 各種調査においては、実施後どうするかということが、より重要と考えます。結果を踏まえて観光基本計画とも照らし合わせつつ、変化の激しいマーケットのなかで経済活動に結び付くアクションを策定し、実行できるようにしていくことが必要と考えます。 (3) アンケートにより当地観光のプラス面、改善すべき課題も見えてくる個人観光客への調査は工夫を要する。
19-2	外国人旅行者ニーズ調査の実施	外国人旅行者の国・地域別の魅力ある観光資源の把握やニーズの顕在化、“売り”の分析	通期	実施段階	・同上	①積極推進	6	4	0	1	0	(1) DM機能を構築することを目的に調査内容・分析方法について、あり方や内容について再度見直しをする。また公民連携による分析、および分析情報の共有を行う。必要に応じて、受益者負担のあり方を検討する。また、箱館会等が収集・ストックする情報についても、ビッグデータや経年データとしての価値が見込まれるため、積極的な共有や活用を検討する。 (2) 各種調査においては、実施後どうするかということが、より重要と考えます。結果を踏まえて観光基本計画とも照らし合わせつつ、変化の激しいマーケットのなかで経済活動に結び付くアクションを策定し、実行できるようにしていくことが必要と考えます。 (3) アンケートにより当地観光のプラス面、改善すべき課題も見えてくる個人観光客への調査は工夫を要する。
19-3	観光客満足度調査の実施	観光客の満足した点、不満だった点に関する調査を実施	通期	実施段階	・同上	①積極推進	6	4	0	1	0	(1) DM機能を構築することを目的に調査内容・分析方法について、あり方や内容について再度見直しをする。また公民連携による分析、および分析情報の共有を行う。必要に応じて、受益者負担のあり方を検討する。また、箱館会等が収集・ストックする情報についても、ビッグデータや経年データとしての価値が見込まれるため、積極的な共有や活用を検討する。 (2) 各種調査においては、実施後どうするかということが、より重要と考えます。結果を踏まえて観光基本計画とも照らし合わせつつ、変化の激しいマーケットのなかで経済活動に結び付くアクションを策定し、実行できるようにしていくことが必要と考えます。 (3) アンケートにより当地観光のプラス面、改善すべき課題も見えてくる個人観光客への調査は工夫を要する。
19-4	その他関連調査実施の検討	観光動向の把握に必要と思われる各種関連調査の新規実施の検討	通期	実施段階	・本計画終了時まで引き続き検討を行う。	①積極推進	6	4	0	1	0	(1) 定量的分析で得られた成果を、次の施策に反映させていく必要がある。 (2) DM機能を構築することを目的に調査内容・分析方法について、あり方や内容について再度見直しをする。また公民連携による分析、および分析情報の共有を行う。必要に応じて、受益者負担のあり方を検討する。また、箱館会等が収集・ストックする情報についても、ビッグデータや経年データとしての価値が見込まれるため、積極的な共有や活用を検討する。 (3) 各種調査においては、実施後どうするかということが、より重要と考えます。結果を踏まえて観光基本計画とも照らし合わせつつ、変化の激しいマーケットのなかで経済活動に結び付くアクションを策定し、実行できるようにしていくことが必要と考えます。
19-5	観光アドバイザー会議の設置	有識者、観光関連事業者等で構成される観光アドバイザー会議による進捗状況の管理	通期	実施段階	・平成31年度は本会議で情報共有したポスト新幹線時代における函館観光の課題を踏まえ、本計画の中間評価を行うとともに、必要に応じ計画内容の見直しを行う。	①積極推進	6	3	1	1	0	(1) 中間評価の結果を次の施策に反映させていく年度です。 (2) 函館が抱える課題やテーマに即したゲストスピーカーを招聘してもいいのではないかと。 (3) 設置自体に異論はないが、「事前に議題を決め、議論し、何らかの結論を出す」という生産的な形になっていない。不安要素の並べ立て、業務成果報告など、各自の意見を述べて終わってしまうことが多い。 (4) 進捗状況に記載されているとおり、2014年に策定された観光基本計画がどのように進捗しているか評価し、必要に応じて変更し更には市内観光従事者と本計画を共有できるためにも会議の設置は必要だと思います。 (5) 函館観光の課題の検討ということでは、実際に当地区でガイドにあっているまちあるきガイド(日本語3団体)からも委員として会議への参加が望ましいと考える。